

# 深井 隆

受賞教員インタビュー 第10回

木彫の新たな可能性を切り開くとともに後進育成に取り組むなど  
幅広い活動が芸術文化の発展に大きく貢献したとして紫綬褒章を受章。



Photo by Hiroaki Horiguchi

## 学校で制作すること

いまの僕にとって、学生の資質を見極めることが重要な仕事で、オーソドックスな作品をつくるのが向いている学生と、どんどん新しいこと

を試みていく学生を見極めていくことが大事だと思っています。彫刻家になりたいという学生から、本人のポテンシャルを引き出すため、「現代彫刻にはこういうのがある」という例を挙げて真似させるのは簡単

なのです。僕が藝大に入ってきたころは、いまよりもっと保守的な教育のあり方でした。それに反発して勉強してきたのですが、「新しいことをどんどんやりなさい」と指導すればいいかというと、決してそうとは言えない。過去の彫刻表現を踏まえたうえで、それをどうやって自分のなかで昇華していくのが重要なのです。だから、僕も新しいことを知らなくてはいけないし、古いことの良さを教えていかなければいけない。

僕自身、若いときは新しい表現で作品をつくりたかった。当時流行っていた現代美術の方法、たとえばミマル・アートのようなことをやりたいと思ったこともあり、でも藝大に入ってから、いろいろ考えて、そういうことは真似ではな

## 第29号 目次

02 受賞教員インタビュー 第10回

深井 隆

04 seidai gallery vol.9

ヨコミヅマコト Y-H

06 教員は語る 第21回

中山英之×中木健二

09 受賞学生インタビュー 第12回

杉山夏実 網守将平 坂下雄一郎

12 TOPICS

映旬 美旬 音旬

20 卒業生に聞く。第8回

藤原道山

22 研究室探訪 第8回

音楽学部音楽環境創造科

24 上野の寄り道 散歩道 第10回

国立西洋美術館

26 上野の杜の波瀾万丈 第18回  
最終回に寄せて

吉田千鶴子 橋本久美子

28 展覧会&演奏会情報

木版ぞめきー日本でなにが起ったかー  
和楽の美 邦楽絵巻「義経記」静と義経を巡って

30 NEWS 2014.02～2014.07  
編集後記



「逃れゆく思念—海—」2014年

いかと思い、自分のなかのことを掘り下げて仕事をしようと思ったのです。そのころ木彫は古いジャンルという意識が強くて、新しいことをやるなら、金属や石を素材にする人が多かったですね。でも自分には木が一番思えたのです。

僕のアトリエは家と学校にありますが、学校で制作することが多いのは、学生と一緒にやることで、おおげさに言えば背中を見てほしいという気持ちがあります。作家と教育者の片方に偏ってしまうのではない。よい仕事をしなければ学生た

ちも僕の話聞いてくれないだろうし、自分の創作を反映させながら指導するのが大事だと思っています。

## 伝統の継承から生まれる木彫の発展

日本美術における木の存在というのは、すごく大きいものなのです。東京藝大美術学部の前身、東京美術学校に彫刻科ができたとき、木彫だけで始まりました。二代目校長で実質的には美術学校をつくった岡倉天心が、西洋の塑造がもてはやされていたなかで木彫を主導

したのは、個人的には先見の明があったと思います。

二〇〇二年(平成十三)に大学美術館の陳列館で、彫刻科の企画により、「垂直の時間 彫刻—過去・現在・未来—」という展覧会を催しました。ちょうど二十一世紀に入って、大学美術館の収蔵品を中心に、日本の彫刻の歴史を垂直的に考えたと思ったのです。日本の彫刻家たちには、日本が「木の国」だということを改めて実感してほしい。歴史の伝承と継承を自分なりに訴えたいと思つて試みた企画でした。さまざま表現媒体のなかでも木は非常に優れた素材だし、日本人には体質的にも心情的にも木が合っている。日本文化の基層には、木に対する精神的、宗教的思想が根ざしていますから。

新しい表現というのは、継承と破壊と発展から生まれるものなのです。ただ継承するだけではなく、既存のものを乗り越えていくには、否定して前進しなければいけない。近視眼的に見ると、新しいことは破壊に見えるかもしれないけれど、歴史を学び、否定すべきことは否定して、初めて新しい美術表現が出てくるのではないのでしょうか。

藝大通信

№29

TOKYO GEIDAI

東京藝術大学広報誌

藝大通信 第29号

### 編集発行

東京藝術大学 藝大通信編集部

### 編集委員

松下 計(美術学部デザイン科教授・編集長)

八谷和彦(美術学部先端芸術表現科准教授)

吉田浩之(音楽学部音楽科教授)

鈴木純明(音楽学部作曲科准教授)

磯見俊裕(大学院映像研究科映画専攻教授)

大石 泰(演奏芸術センター准教授)

アートディレクター

### 松下 計

■表紙デザイン

### 松下 計

■表紙撮影

### 堀口 宏明

### 堀口 宏明

### 堀口 宏明

塚田史子(美術学部附属写真センター)

### 制作

株式会社 平凡社

### 発行日

平成二十六年九月五日

### お問い合わせ先

東京藝術大学 総務課

〒100-8704 東京都台東区上野公園12-18

電話 〇五〇五五二二〇二六

FAX 〇三二五五二二〇二六

E-mail tolawase@ml.geidai.ac.jp

URL http://www.geidai.ac.jp/

### 深井隆(ふかい たかし)

教授 | 美術学部彫刻科

一九五二年群馬県生まれ。七六年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。七八年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。八四年、東京藝術大学美術学部彫刻科講師。八五年、文部省在外研究員として英国(王立美術学校/RCA)に滞在。研究。九四年、東京藝術大学美術学部彫刻科助教授。二〇〇五年から同教授。

おもな受賞歴に一九八八年第十九回中原二郎賞優秀賞、八九年第十四回平衛田中賞、九七年第十七回現代日本彫刻展(山口)(宇部市野外彫刻美術館賞・埼玉県立美術館賞、九九年第十七回長野市野外彫刻賞、二〇〇二年第十一回タカシマ美術館賞、〇三年第六回倉吉緑の彫刻賞。